

平成30年度埼玉県オハイオ州スカラシップ
機械工学インターンシップコース レポート②
「初めてのプロジェクト」

山本 達也

・インターンシップ編

時が経つのも早いもので、気がつけばオハイオ州で暮らし始めて、ひと月がたちました。このような充実した日々を送れていること、そしてこのような機会をいただいたことは感謝に堪えません。

9月に入りインターンシップも本格的に動き出しました。現地のアメリカ人エンジニア達の話す英語が完璧とまではいきませんが少しずつ理解できるようになってきました。工場見学の際、ひとつだけ casting parts の一部が歪んでいたため質問しました。責任者のブライアン氏が説明をしてくれました。 casting parts がきちんと既定の硬さに達しているかを試験したためにできた歪みだそうです。

この月の前半は工場見学を行い、どのような仕事を行っているのか説明を受けました。エンジニアについて行き、一日の仕事の様子を見学しつつ、手伝いました。私が特に興味をもったのは計測装置です。生産された parts がまったく同じものになることは、温度変化や工具の磨耗などの理由から多くありません。その中で parts が基準値を満たしているのか検査するための計測を見学しました。日本で計測に関する研究を行っていたため、非常に参考になりました。

この月の後半には、初めてプロジェクトを依頼されました。コストに対する生産量を表計算ソフトを使い、グラフ化するプロジェクトです。コストの情報は毎日更新するため、それに対応したものを作製しました。出来上がったグラフのファイルはメールでエンジニアチームに送られました。自分の行ったことが周りの人の役に立てたと思えた瞬間でした。



パーツの計測を行うトロイ氏

フィンドレー大学での生活編

アメリカは車社会なので車を持っていないと非常に不便です。幸いなことに、我々は NBO から車を一台貸し出していただいています。ペーパードライバーだった私はルームメイトに運転を教えてもらい、ある程度運転ができるようになりました。

オハイオ州の冬はとても厳しいそうで、ルームメイトと話し合い、冬に入る前にいろいろな場所を観光に行くことに決めました。文化や歴史を知り、日本と比較をすることでより深く日本について知見を得る事ができると考えたからです。そして日本のこと、埼玉の事を伝えていきたいと思います。

この月の初めにはデイトンの航空博物館を見に行きました。敷地面積がとても広く、数多くの飛行機や戦闘機、航空機などがありました。お恥ずかしい話ですが、このとき博物館のポストカードを買い、日本にいる両親に送りましたがきちんと送れなかったため大学の自分の住所へ戻って来てしまいました。

中旬にはハンコック歴史博物館に行きました。ハンコックとは、大学があるフィンドレー市付近のエリアを指すようです。日本の鎧(よろい)が展示されており驚きました。フィンドレーの歴史や今までどのような産業が盛んだったのかなどを学びました。

下旬にはミシガン大学に行き大学や博物館を見学しました。フィンドレー大学や日本の自分の大学と比べ敷地面積が広く、見て周るのが大変でした。大学付属の美術館にはまたしても日本の鎧がありました。外国の方から見て珍しいのかも知れません。

授業についてですが、英語で英語を学んでいます。名詞や形容詞も英語で説明されるので文法のほかにリスニングも同時に学べます。わからない単語も質問すると簡単な英語で説明して下さるのでインターンで聞いたわからない言葉を教えてもらったりしています。

私のクラスで自己紹介とプレゼンテーションの練習をしました。その中で私が日本の埼玉から来たことやどのような所なのかを説明しました。



プレゼンテーションを行う私